

小學人身究理書
下

ヤ 3
1152
2





小學人身窮理書卷之下

大日本大阪浦谷義春

第九課 血液循行論



血液循行ノ形器ハ心臟動脈毛細管靜脈等ナリ
 心臟ハ其形ヲ倒懸セル蓮蓬ノ如ク胸腔内ニア
 リテ心嚢ヲ被リ左右兩肺ノ間ニ係ル縮張スベ
 キ筋肉質ニシテ動脈茲ニ起リ靜脈之ニ歸ル心
 臟内ヲ四窩ニ分ツ曰ク左房左室右房右室トス
 左房ト左室ノ間ニ僧帽瓣膜ナルモノアリテ血
 液ヲ左房ヨリ左室ニ送り返流セザル為ニ設ケ



小學ノ身算式書
 左ノ
 タル瓣ナリ、右房ト右室ノ間ニ三尖瓣膜アリテ
 左室ノ如ク血液ノ返流ヲ拒グ肺動脈ハ心臟右
 室ヨリ起リ半月様瓣ヲ有ンテ左右二個アリ肺
 臓内ニ入り、肺静脈ハ肺臓ヨリ心臟左房ニ四個
 開口シ瓣膜ハ有セズ、大動脈ハ半月様瓣ヲ有シ
 テ左室ヨリ起リテ弓狀ヲ為シ頭頸ニ上行スル
 モノヲ上行大動脈、下ルヲ下行大動脈ト稱シ、
 四肢百骸至ラザル所ナシ、動脈ノ末梢ヲ毛細管ト
 稱シ、至微至細ノ管ニシテ毛髮ヨリモ細微ナリ、
 静脈ハ毛細管ニ初リ動脈ノ表部ヲ匝リ漸次廣
 大ナル

潤ナリ下行大静脈ニ至リテ終ニ心臟右房ニ
 入ル血液循環ハ如何ナル理ナルヤ曰ク心房心室ノ
 血液循環ハ如何ナル理ナルヤ曰ク心房心室ノ
 交互縮張スル妙機ヨリナルハ宛カモ巧ミナル
 水彈ニニツノ簧ヲ備ヘ把柄ヲ以テ彈中ノ大氣
 ヲ空虚ナラシムレバ水ノ壓カヲ以テ簧ヲ開キ
 水入レバ又把柄ヲ以テ之ヲ壓スレハ水ハ高ク
 逆射スル如キ機巧ニ似テ猶幾層ノ妙機ヲ備ヘ
 タルモノニシテ先ヅ血液ハ心臟左室ノ収縮
 由テ大動脈ニ逆射スレバ半月様瓣ニ即チ簧ニテ

返流ヲ防ギ此時右房ハ大静脈ヨリ血液ヲ受ケ
 大動脈ハ血液ヲ全身ニ循行シ大静脈ヨリ心臓
 右房ニ還歸ス之ヲ大循環ト名ク大静脈ヨリ右
 房ニ還歸セシ血液ハ不潔紫黑色ニシテ炭素ヲ
 含^フ有^ス此血右房ト右室ノ間ニアル三尖瓣膜ヲ
 通ジテ右室ニ入り肺動脈ヨリ肺臓内ヲ循行シ
 呼^ク氣ニ由テ不潔ノ炭酸氣ヲ噓^キ吸^ク氣ニ由テ大
 氣中ノ新鮮活潑ナル酸素ヲ吸^ヒ先^キニ紫黑色
 ナル血液變ジテ鮮紅色トナリ肺静脈ヨリ心臓
 左房ニ循行ス之ヲ小循環ト名ク蓋シ大循環ハ

周身ノ循行ニ係リ小循環ハ呼吸ニ由テ血液ヲ
 清鮮トラシム作用ナルヲ以テ一ニ呼吸循環ト
 稱ス小循環ノ血液ハ前條ニ述ル如ク左房ニ入
 リ左室トノ間ニアル僧帽瓣膜ヲ通ジテ左室ニ
 至リ更ニ大動脈ヨリ周身ニ循行シテ又大循環
 トナルト猶環ノ端ナキガ如シ豈造化ノ妙機驚
 愕ニ堪ヘザル可ンヤ
 吾人ハ新鮮ノ空氣中ニ呼吸運動セザレハ健康
 ヲ害スル理由ハ前條ニ記載セル如ク周身ヲ循
 行スル血液ハ各臟各器ニ於テ榮養分ヲ取ラレ

蒸發氣溫度等ニ由テ燃燒セラレタル炭酸物ナ
 レバ身體ニ殘レバ大ニ害ヲナス故ニ呼氣ヲ以
 テ之ヲ驅除シ新鮮大氣ノ酸素ヲ吸氣ニテ引キ
 良血トスル妙機ナルヲ以テ多人數集合ノ室ハ
 大氣不潔ニシテ健康ニ害アリ喻ヘバ劇場寄席
 等ハ窓ヲ多ク開ケザレバ新鮮ノ大氣乏シク數
 人ヨリ呼出スル炭酸室内ニ充テ頭痛眩暈等ヲ
 發シ甚シキハ斃ル、^{トアリ}又石炭坑古井等
 ニ入り直チニ死スルヲ妖靈ノ所為ナリト恐ル
 、モ他ニ非ズ之レ炭酸中毒ニ由ルモノ猶ホ益

死スルモノト同ジ之レ肺臟ニテ炭酸ヲ呼出ス
 ルヲ能ハズ血中ニ入り中毒ヲ發スルモノナリ
 郊外開濶ノ大氣中ニ逍遙スレバ精神ノ爽快ナ
 ルハ新鮮ノ大氣ヲ呼吸スルニ由ル其他身體ノ
 運動ヲ適度ニスレバ血液循行ニ障碍ナク健康
 ナリト雖^{坐業安逸ノ人ハ}血液下腹部ニ沉滯
 シテ痔及ビ腫瘍ヲ發スル^{ト多シ}又衣服ニアル
 帶鈕等ハ可及的緩メテ堅ク束縛ス可カラズ緊
 シク紮ル帶ノ下ハ血行ヲ妨ゲ病ヲ發ス^{ト多シ}
 凡ソ吾人ノ榮養ハ食物ヲ血ニ化シ渾身ヲ顧養

小學人身體學 卷下 四

スルセノナレバ諸病多クハ血液循行ノ過不及
ヨリ生ズ故ニ血液循環ノ妙理ヲ了解スルハ
一身上ノ利害得失ヲ知ルノ半バニ過ン

第十課 ○呼吸論 付體温ノ説

呼吸器ハ鼻腔喉頭氣管氣管支肺臟ニシテ横隔
膜肋骨内外肋間筋モ呼吸ヲ補助スルモノナリ
肺臟ハ其形狀左右ニ分ツ圓錐狀ノ囊ノ如ク左
右兩肺トシ更ニ右肺ハ三葉左肺ハ二葉ニ分ク
レ其質ハ海綿様ノ組織ニシテ内ニ無數ノ氣胞
アリテ氣管支ヨリ空氣ヲ入ル肺動脈肺靜脈循

行ス肺臟ヲ包羅セル膜ヲ胸膜ト稱シ氣管ハ猶

ホ樹木ヲ倒懸セルガ如ク氣管ヨリ氣管支トナ

リ枝極愈々細ク末梢ニ至リ氣胞ニ終ル

横隔膜ハ胸腹ノ境界ヲナス中隔ノ筋肉ニシテ

食道大動脈靜脈乳糜管神經等ノ穿孔ヲ有シ呼

吸機能ヲ扶助ス

抑モ呼吸ノ作用ハ肺臟ヲ以テ大氣ヲ嚙噓シ横

隔膜收縮スルキハ第七肋骨部迄下リ肋骨及ビ

肋間筋上舉スレバ胸腔濶大トナリ空氣肺臟中

ニ竄入スルヲ吸氣ト謂ヒ肋骨ハ自己ノ重カニ

由テ下リ横隔膜ハ自質筋肉ノ彈カニテ上行シ
 肺臟モ又收縮シテ氣胞内ノ大氣ヲ驅逐スルヲ
 呼氣ト云ス而ノ一吸氣毎ニ酸素ノ廿一分窒素
 ノ七十九分ノ鮮活ナル生氣ヲ吸入シ一呼氣毎
 ニ酸素十六分炭酸五分窒素七十九分ヲ呼出ス
 一呼吸ヲ一息ト稱シ一分時間十七息ヲ通則ト
 ス熱病、焮衝病等ニ罹レバ呼吸速迫シ中毒烈寒
 等ニ冒サレタル片ハ遲徐トナル凡ソ呼吸ハ吾
 人ノ母體ヨリ分娩シテ初聲ト共ニ發シ死ニ至
 ル迄歇ム時ナシ

第壹項 體温之說

體温ノ新說ハ化學作用ニシテ本說ハ舊
 ニ由ルト雖初學ニ例ノ引キ易キ所以ナリ

呼吸ノ生活ニ必要ナルハ至^ツ竟^リ身體ヲ榮養シ燃
 燒ニ由テ不潔トナリ炭酸ヲ含ミタル血液ハ循
 行論ニ記載セル如ク心臟右房ニ入り三尖瓣膜
 ヲ通ジテ右室ニ入り肺動脈ヨリ肺臟内ニ循行
 シ呼氣ニ由テ不潔ノ炭酸ヲ噓キ新鮮活潑ノ酸
 素ヲ喻ヒ鮮紅血トスルハ呼吸ニ由テ血液ヲ燃
 燒スルト大循環ニ由テ血液ノ周身ニ循行スル
 際血管中ニテ脂肪ノ燃燒スルトニ由ル吾人ハ
 温熱ノ飲食ヲ用ヒズ凡自然ニ身體ノ温暖ナル

ハ呼吸ニ由テ肺中ニテ血液ノ燃燒スル故ナリ
身體ヲ劇シク運動スル片ハ體中ノ燃燒熾シト
ナリ溫度尤盛シ又人迅速ニ疾走スレバ呼吸劇
シクナリ、嚴寒ノ氣候ニテモ汗ヲ流スモ此理ナ
リ、

吾人ノ生活スル大氣ハ清潔ノ所ヲ撰ミテ住居
ス可シ塵埃ノ多キ工場殊ニ礦物ヲ碎粉トスル
職工或ハ織工場帽ノ製作所等ノ工人ハ常ニ注
意セザレバ肺臟内ニ塵埃細粉ノ固形分ヲ沉澱
シ肺病ヲ誘發スルコト多シ、殊ニ清潔掃除等ニ注

意ス可キ箇所ハ繁華ノ市街溝渠便所塵溜牧畜
場屠所等腐敗物ノ蒸散シ易キ所ハ常ニ大氣不
潔ナレバ可及的掃除ヲ怠ル可カラズ繁華ノ市
街ハ大氣ノ流通宜シキ田舎ニ比スレバ、
ルモノ多シ、殊ニ勞瘵病等ハ人煙稠密ノ地ヲ避
ケ山間若クハ田舎ニ移居スルヲ良トス、流行病
殊ニ虎列刺、室扶斯、チフテリア、天然痘等ハ人ヨ
リ人ニ傳染スル慘惡性ノ病ナレバ人煙ノ疎ナ
ル氣中ニ避病スルヲ良トス、人口稠密ノ地ニ於
テ死亡スル比較ヲ舉グルニ英國ノ「リパーブル

洲ハ英國中最モ人口稠密ニシテ不健康ノ地ニシテ一英里四方ニ六萬三千八百廿三人群居ノ地ニシテ人民ノ死亡比較ハ千人ニ付廿九人ノ此例ナリ之ヲ以テ是ヲ見レハ定命ハ僅ニ廿六歳ノ比例ニ該ル、本邦大阪ノ如キハ明治十年ニハ百人ニ就テ二、四六、余、同十一年ニハ百人ニ付キ二、七二、余、明治十二年ノ如キハ虎列刺ノ流行ニ由テノ死亡數ハ十一年ノ右ニ出ルナラシ、東洋人ガ首唱セル吾人ノ定命五拾年ト謂ヒシモ、今ハ年一年ヨリ人口ノ繁植スルニ隨フテ

定命モ又昔日ノ半數ニ垂ントス、嗚呼思ノテ茲一至レハ悚然トシテ恐レザル可シヤ、此大折ノ救フハ衛生上ノ最モ注意ス可キ所ナリ

第十一課 ○發聲器論

發聲器ハ氣喉、氣管ノ諸軟骨及ビ真假ノ聲、軟帶等ニシテ活齒牙、脣等之ヲ調整シテ種々無量ノ聲音ヲ發ス

氣喉ハ甲状軟骨、披裂軟骨、會厭軟骨、環狀軟骨及ビ軟帶ノ圍擁ニテ造構シ、氣管軟骨ハ鈎狀シテ肺臟ニ入ル、真聲帶ハ披裂軟骨ト甲状軟骨ニ繫

罹シ假聲帶ハ粘膜ヨリ成ル

吾人ノ氣喉ハ恰カモ或ル樂器ノ如ク簧ヲ備ヘ

肺臟ハ氣槽ニシテ將ニ言ントスルヤ肺臟ヨリ

空氣ヲ簧即チ聲帶ニ激シテ震動ヲ發シ簧ノ結

合ニ由テ軟骨ノ諸筋開縮シテ音聲ヲ發スルモ

ノトス男子ハ氣喉太ク聲帶長キヲ以テ震動少

ナク聲調低ク女子ト小兒ハ氣喉狭ク聲帶短キ

ヲ以テ緊シク震動スル故ニ高調ナリ

音調ノ最高ヨリ最低迄ノ調子ヲ區別シテ百二

十種トス之レ樂器ノ音線ニテ之ヲ知ル可シ又

言語ヲ調フニ之ヲ補助スル各器ニ由テ各種ノ

音アリ概スレバ アイウエオノ母韻ハ單ニ喉内

ヨリ出テ他ノ四十五音及ビ濁音二十半濁音五

音等ハ喉頭口蓋顎舌牙齒脣等ノ補助ニ由テ發

ス喻ヘハ かきくけこハ牙音 さしすせそハ顎齒

ヨリ出テ たちつてとハ舌ト なにぬねの

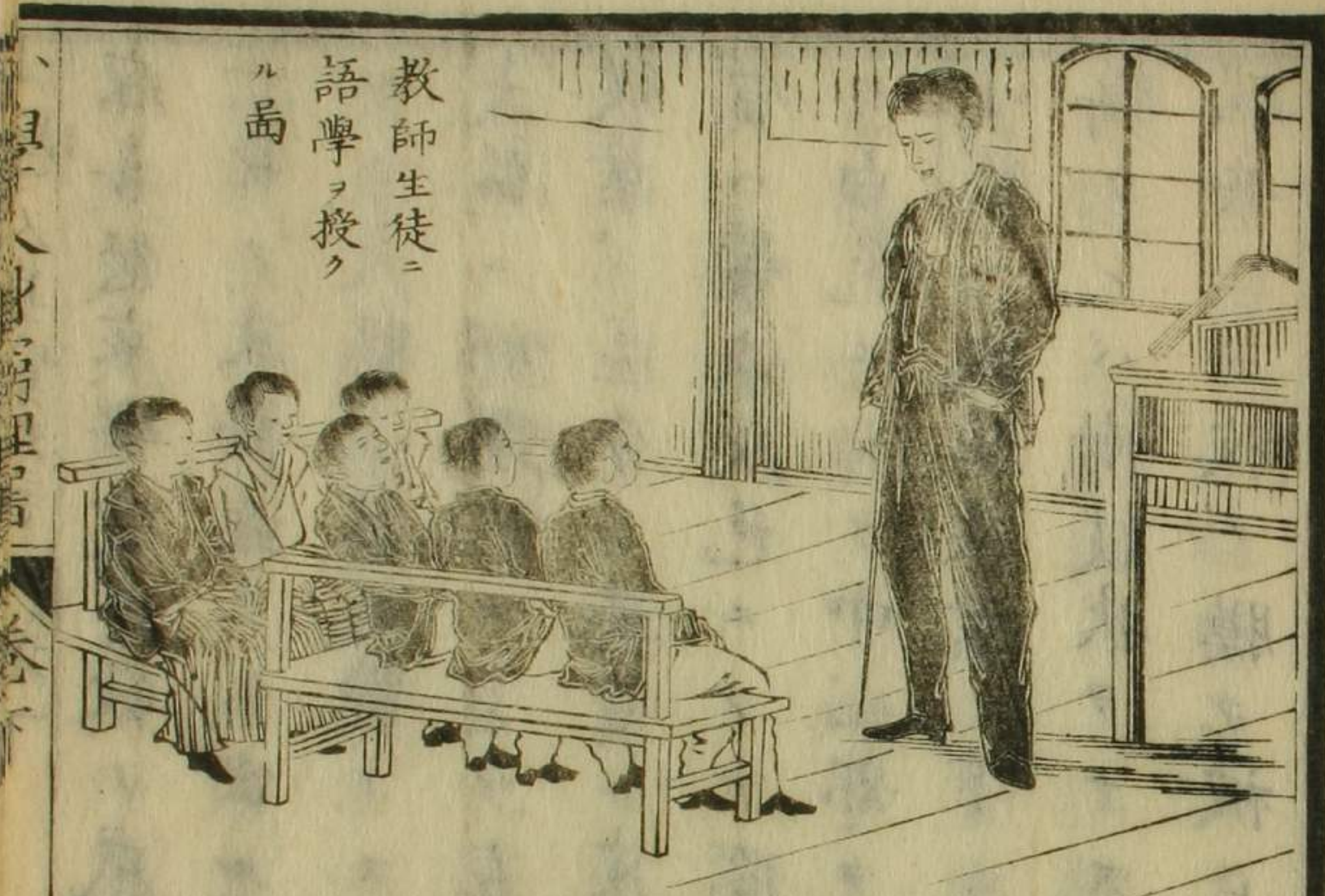
ハ鼻 はひふへほハ喉ト脣 まみむめもハ脣也

ハ や江よハ喉口蓋 らりるれろハ舌 わわうゑを

ハ喉ト脣ノ補助ニ由テ言語ヲ調整ス其他濁音

半濁音之ニ準ジテ發音スルガ如シ

聲音ヲ使用スル職業喻ハ説教師、演説者、講話師
 等ハ常ニ過劇ニ聲音ヲ使用シテ氣喉ニ充血シ
 喉頭加答流病ヲ發シコエカ嘔嘶スルコトアリ
 小兒ニ頸巾ヲナス常慣習ハ寒冷ヲ防グ為ニス
 ルモノト雖氏及ツテ害アリ何トナレバ偶々之
 ヲ脱セバ頸部ヨリ寒冷ノ氣ニ冒サレ喉頭ニ充
 血ヲ發シゲプテリアコエカ馬脾風等ヲ發スル恐レア
 リ又緊ノク頸巾ヲ施ス片ハ音聲ヲ失フコトアリ
 學校ニ於テ幼童ニ語學ヲ教育スルニハ身體ヲ
 正シク直立セシメドモガレハ真ノ正音ヲ發スルコト



教師生徒ニ語學ヲ授クル處

能ハザルモノナリ
 第十二課 ○ 神経系論
 神経ハ腦髓、延髓、脊髓ヨ
 リ出ル銀白色ノ纖維ニ
 ンテ汎ク身體ニ布蔓シ
 知覺及ヒ運動ヲ主ドル
 モノナリ、
 腦髓ハ一身ノ上部ニ位
 シ精神ノ注府ニシテ五
 官ノ由テ起ル所、寒、熱、痛

痒喜怒哀樂愛惡欲ノ感情ノ由テ出ル府ニシテ
一身ノ政務茲ヨリ出ルタイセツ貴重ノ部ナリ腦髓ヲ分
ツテ大脳小脳延髓トス

大脳ハ卵圓形ニシテ左右半球ニ分テ前葉中葉
後葉ニ區分シ其質ハ皮質及ヒ髓質ヨリ成ル皮
質ハ帶赤灰色ニシテ腦迂廻ノ外質ヲ造リ髓質
ハ白色ニシテ中心部ヲ構成ス

小脳ハ大脳後葉ノ下ニ有テ左右ニ分ツ之ヲ割
斷スレバ樹枝状ヲナス之ヲ活樹ト名ク大脳小
腦共ニ三枚ノ膜ヲ被レリ曰ク剛腦膜曰ク蜘蛛

絲膜曰ク軟腦膜是レナリ

延髓ハ大脳脚ト小脳脚部ヨリ脊髓ニ至ル迄ヲ
謂フ延髓ノ上方一華魯里氏ワルヒ發細人橋アリ

脊髓ハ延髓ノ下端ヨリ薦骨ニ至ル各脊椎骨ヲ
以テ護ホ擁ス

腦神經ヲ十二對トス之レ大脳小脳延髓等ノ底
面ヨリ對ヲ以テ出ヅ第一對嗅神經第二對視神
經第三對動眼神經第四對滑車神經第五對三叉
神經第六對牽引神經第七對顏面神經第八對聽
神經第九對舌咽神經第十對迷走神經第十一對

脊髓副行神經第十二對舌下神經ナリ脊髓神經
ハ三十一對ニシテ項神經七對背神經十二對腰
神經五對薦骨神經六對尾骶骨神經壹對等ナリ
神經ニ知覺神經運動神經間錯神經アリ知覺神
經ハ寒熱痛痒等ノ知覺ヲ主ドリ運動神經ハ專
ラ運動ノ機能ヲナシ知覺運動混合スルヲ間錯
神經ト稱ス腦神經中純粹ノ知覺神經ハ嗅神經
視神經聽神經舌咽神經三叉神經ノ舌支等純粹
ノ運動屬ス神經ハ動眼神經滑車神經三叉神經
ノ下顎支牽引神經顔面神經舌下神經ニテ間錯

神經ハ迷走神經脊髓副行神經等ナリ交感神經
ハ脊髓ト各部ノ神經節ニ起リ嗅神經視神經聽
神經ヲ除ク外ハ諸神經ニ交感ス
吾人一身ノ主宰ハ腦髓ヨリ發シ特ニ大腦ハ思
慮記憶感情ノ根元ニシテ惡欲情慾ハ小腦ヨリ
出ヅト謂フ腦ヨリ身體ノ各部ニ神經ノ應ズル
機能ヲ離心傳機ト稱シ身體ノ各部ヨリ腦ニ及
フヲ合心傳機ト謂フ恰カモ電氣ノ積極ハ消極
ト線ヲ以テ交通スル如ク神經ハ遠隔部ヨリ腦
髓ニ腦髓ヨリ遠隔部ニ傳達スルト峻速ナルモ

ノナリ、喻バ足ノ趾ヲ躓ケバ顔面ヲ嘔メ腦脊髓
 病ニ罹レバ、歩行蹒跚スルガ如シ、又交感神經ノ
 相感ズルヤ、誤テ頭腦ヲ擊ツキハ胃ニ交感シテ
 惡心嘔吐ヲ發シ、胃ヲ刺戟ス可キ食物ヲ喰ヘハ
 惡心頭痛ヲ起スガ如シ、
 凡ソ精神ヲ勞役スレバ睡眠ヲ以テ休止セザル
 可カラス、苦慮甚シキ片ハ大ニ腦髓ヲ勞ス、又遊
 惰ニ日ヲ送り事物ニ精神ヲ注ガザレバ腦髓ノ
 榮養力衰ヘ畢生間痴漢ニテ身ヲ終ルコトアリ、語
 ニ曰ク一日ノ政ハ朝ニアリ、一身ノ政ハ少年ニ

アリト少年勉學セザレバ老年ニ至テ學フリ難
 シ、又生徒ノ授業ニ就クヤ、午前ニハ讀書等、難解
 ノ課ニ就カシム可シ朝ハ夜間睡眠ノ為ニ腦髓
 ノ勞レ復シ精神ノ爽快ナルヲ以テ精學健康共
 ニ良シ夜間ノ讀書工業ハ勞レ多久益少ク健康
 ニ害アリ又精神ヲ使用スルニハ一途ナラザレ
 バ事物ヲ考究スルコト能ハズ、喻バ事務繁忙或ハ
 多事ニ接スル片ハ一事疎漏ニ涉リ或ハ忘却ス
 ルコトアリ、又急ギテ談話シナガラ歩行セバ談話
 中絶スルガ如シ

談話レテ連
行スル由



腦ハ一身ノ君主ナレバ
四肢百骸皆首府ノ政令
ヲ受ケタルモノナレバ
貴重ニ保護セザル可カ
ラズ之レ造化ノ人ヲ造
ルニ頭顱ノ堅固ナル骨
ヲ以テ圍ミ毛髮ヲ以テ
寒熱外傷等ヲ防グ深宮
ノ壘壁ナリ然ルニ半髮
圓顱等ハ造化ノ保護主

義ニ恃ルモノナリ見ヨ頭ヲ打撲セシ後ニ癲狂
白痴トナルヲアリ、腦髓ヲ貴重ニスルハ頭ニ帽
ヲ被リテ之ヲ保護ス可シ小兒ノ急驚風ハ父母
ノ猥リニ兇頭ヲ打擲セルヨリ發スヲアリ、兒ノ
親タルモノハ慎ム可キヲナリ、

五官論

五官トハ眼耳鼻舌及ビ皮膚ノ觸覺ナリ、眼ノ物
ヲ視覺シ、耳ノ音響ヲ聽キ鼻ノ香臭ヲ嗅ギ、口舌
ノ酸苦甘辛鹹ノ味ヲ知リ、皮膚ノ寒熱痛痒ヲ觸
覺スルガ如シ、鼻視聽味ノ四官ハ腦髓ヨリ直チ

ニ主宰スルヲ以テ頭部ニアリ、

第十三課 ○視官 (眼及ヒ補助器)

眼球ハ眼窩内ニ在テ七膜、三液、六筋ヲ以テ造構
シ、淚液ヲ以テ滋潤シ、外部ニハ眼瞼、睫毛、毛等
ノ補助器アリ、七膜トハ結膜、鞏膜、角膜、脈絡膜、虹
彩、網膜、蒼骨布氏膜等ナリ、結膜ハ透明ノ粘膜ニ
シテ上下ノ眼瞼ト眼球ヲ繋ギ、鞏膜ハ眼球ノ外
圍ヲ營ミ、角膜ヲ除クノ外ハ鞏膜ノ領スル所ナ
リ、角膜ハ玲瓏透明ノ強固ナル凸膜ニシテ恰カ
ク七時辰盤ノ硝子ニ於ルガ如シ、脈絡膜ハ眼球ニ

循行スル動靜脈ヲ分布シ、虹彩ハ縮張ス可キ圓
形状ノ膜ニシテ中心ニ孔ヲ開ク即チ瞳孔是ナ
リ、網膜ハ眼球ノ最内層ヲナス、視神經支ヨリ造
構セル膜ニシテ視神經ハ鞏膜ヲ穿テ網膜ニ散
布ス、蒼骨布氏膜ハ脈絡膜ト網膜ノ間ニアル至
薄ノ膜ナリ、三液ハ水様液、水晶液及ビ硝子液等
ニシテ水様液ハ角膜ト水晶體ノ間ニアル透明
ノ液ニシテ前房水氏名ク水晶液ハ水様液ノ後
方硝子液ノ前ニ在テ複凸透鏡ノ形ヲ為シ、水晶
囊ニテ被包シ、硝子液ハ透明粘稠ノ液ニシテ前

部水晶體ヲ受容スル部凹陷シテ稍圓形ヲ為シ
三液中最モ多量ヲ有シ後房水ト名久六筋ハ上
直筋下直筋内直筋外直筋上斜筋及ビ下斜筋等
ナリ此六筋ハ眼球ヲ各方ニ運轉スルモノトス
眼瞼ハ光線ノ過劇ナルヲ遮リ上下眼瞼ノ開閉
ニ由テ塵埃汗等ノ眼中ニ入ルヲ防ギ睫_{マクギ}之ヲ
助ケテ瞬_{マクギ}動ス涙腺ハ涙液ヲ分泌シテ眼球ヲ滋
潤シ淚管ハ鼻内ニ通ス
眼ノ物像ヲ映射スルハ透明體ノ光線ヲ屈折ス
ル理學作用ニシテ光線ハ空氣中ヨリ角膜ヲ透

シテ水晶體ニ屈折シ網膜ニ視覺スルハ猶光線
ノ空氣中ヨリ水中ニ入レバ疎體ヨリ密體ニ入
ルヲ以テ屈折スルガ如シ眼ノ物ヲ視ルハ光線
水晶體ニ交互シテ網膜ニ映ズルヲ視神經
腦ニ感ジ視覺スルナリ吾人ノ諸物像ヲ見ルハ
倒影ナリト雖_{カガミ}氏倒視セザルハ習慣ニ由ルモ
ナリ角膜水晶體ノ凸隆過度ナレバ近視眼ト稱
ス故ニ凹鏡ヲ用ヒテ平均ナラシムルヲ要シ若
人ノ如ク凸形ヲ失ヒ扁平形トナリ物ヲ視ルニ
模糊トナリタルヲ遠視眼ト云ヒ凸鏡ヲ借りテ

細字ヲ讀易カラシム、
眼ハ一物ヲ久シク凝視シ又ハ光輝閃爍タルモ
ノヲ視ルハ眼カヲ損ズ喻ハ石油或ハ^{ヒカリ}酒ノ稍
子燈下ノ讀書ハ眼ヲ損ズル^{キナメキ}アリ又瞳孔ハ光
線ノ刺衝ニ由テ縮張スル故一暗室ヨリ日向ニ
出テ日向ヨリ遽カニ暗所ニ入ル片ハ^{クラカリ}羞明^{ヒナタ}暈
ヲ目前ニ顯ハシ眼ヲ害スルモノナリ又物ヲ視
ルニ斜視スレバ其習慣ニ由テ斜視眼トナル^{スガマ}ト
アリ可及的直一物ヲ視ルノ良トス、

第十四課 ○聽官 (耳)

耳ハ聽器ニシテ外耳中耳^{鼓膜}内耳^{迷路}ノ三ツニ
區別ス外耳ハ軟骨ヲ以テ皮膚之ヲ掩ヒ大氣ノ
抵衝^{ツキ}スルニ由テ音響ヲ^キ聽取シ易カラシメ、中耳
ハ鼓膜ヲ以テ外耳ト隔テ内耳迄ノ中間ナリ、此
處ニ四個ノ細小骨アリ曰ク砧骨槌骨馬鐙骨及
ビ小珠骨等ナリ、又中耳ヨリ咽喉ニ通スル管ア
リ、歐斯多幾氏管ト稱ス、此管ヨリ中耳ニ空氣ヲ
通ス、故ニ耳聾者カ音響ヲ聽ントスルニハ口ヲ
開キ此管ヨリ幽カニ聞ユル^トアリ、内耳ハ回郭
迷路ト云フ、前庭半規管及ビ蝸牛殼ノ三部ヲ含

ム、前庭ハ迷路ノ中缺ニ在テ、前ニ蝸牛殼後ニ半規管アリ、聽神經ハ腦ヨリ出テ三ツノ半規管及ビ蝸牛殼螺蛸層ニ分布シ、音響ヲ腦ニ傳達ス、大氣ノ振盪之ヲ音響ト云フ、大氣中音響ノ傳達ハ一秒時間ニ千百二十尺ニシテ、吾人ノ音響ヲ聽ク理ハ先ヅ大氣ヲ振盪スルヲ喻ハ鼓吹、管弦等ニテ耳邊ノ大氣震動シテ外耳ニ通入ス、外耳ハ恰カモ喇叭ノ造構ニテ大氣ノ波動ヲ輻聚スル漏斗ニシテ、大氣外耳ヨリ入り鼓膜ニ達シ、鼓膜ハ猶鼓ノ如ク大氣ノ突衝ニ由テ緊張セラ

レ外耳ニ反射ス、是ヨリ中耳ノ鼓室内壁ノ槌骨砧骨、馬鐙骨及ビ小珠骨ヲ衝キ、馬鐙骨ノ基礎ハ震動ニ由テ卵圓孔ニ達シ、鼓室内壁ヨリ内耳ノ迷路ニ波及シ、前庭蝸牛殼及ビ三半規管ニアル外液コチユンニ内液バスカルニニ震動ヲ傳達シテ、聽神經ニ感ジ、腦髓ニ音響ヲ識別ス、

過劇ノ音響又ハ數多ノ音ヲ聽ケバ、聽別ニ難キヲアリ、甚キ音響殊ニ迅雷ノ如キ音響ノ為ニ鼓膜ノ破裂スルヲアリ、又五官咸覺ノ一ヲ欠ケバ一ハ必ズ穎敏トナルモノナリ、喻ハ盲人ノ探摸

シテ能ク物質ノ疎密色等ヲ辨ス、天稟啞子ナル
モノハ必ス耳聾ナリ、是ハ歐斯多幾氏管閉塞シ
テ發音聽響ノ兩官ヲ調整スル能ハザルニ由ル
耳聾外耳ニ畜積スレバ鼓膜ノ緊張作用ヲ妨ゲ
或ハ歐斯多幾氏管壅塞シテ耳聾トナルトアリ、
此耳聾ハ耳聾ノ畜積ヲ除去シ、又歐斯多幾氏管
壅塞スルモノハ、護謨管ヲ以テ聾者ノ耳内ニ大
氣ヲ通スレバ治ス。

第十五課 ○ 鼻官 (鼻)

鼻ハ香臭ヲ咸覺スル器ニシテ親シク物質ノ香

分子ノ嗅神經及ビ三叉神經ノ中支ニ感ゼシム
ル作用アリ、鼻孔ハ大氣ヲ送迎呼吸スルト香分
子ヲ吸入スルノ門ニシテ内ニ鼻毛ヲ生ジテ、細
蟲及ビ砂塵ノ竄入ヲ防ギ咽喉ニ至ル道ニハ粘
液膜ヲ裏被シ、粘液腺ヨリ鼻涕ヲ分泌シテ、滋潤
シ、烈臭腦ヲ侵スヲ防グモノナリ、若シ風邪ニ冒
サレバ粘液腺ヨリ多量ノ鼻涕ヲ流シ甚シキハ
ハ香臭ヲ識覺スルヲ能ハザルトアリ、
鼻ノ香臭ヲ嗅感スルノ穎敏ナル人ハ僅微ノ香
臭モ頭痛ヲ起シ或ハ惡心嘔吐ヲ惹發スルトアリ



獵夫大ヲ牽ビ大獵
夫ノ歎跡ニ導ヒ
ク圖

リ、獵犬ノ獸類ノ通過セ
シ、經路ヲ嚮ギテ能ク走
跡ヲ知リ、獵夫ヲ案内セ
シムル如キハ、カリウト 嗅官ノ人
間ヨリ銳敏ナル故ナリ、
造物主ノ注意ニ依リ、
官ヲ造構セルヲ以テ健
康ニ害アル糞尿腐敗物
等ノ如キ傳染病毒ノ含
舍シ易キ惡臭ヲ厭嫌セ
イヤカシ

シメ清潔ヲ欲スル念慮ヲ生ゼシムルハ妙巧ト
謂ッ可シ、

第十六課 ○ 味官 (活)

味覺ノ官器ハ舌ニシテ口蓋之ヲ助ケ食物ノ酸
苦、甘、辛、鹹ノ諸味ヲ識別シ其味ヒヲ三叉神經ノ
中支舌咽神經ノ支別ニ傳達シテ腦髓ニ成覺ス
舌ノ表面ニ無數ノ隆起即チ乳嘴ナル者アリ、之
レ味覺神經ト腺狀毛細管ヨリナル者ニシテ、凡
テ食物ヲ味フ可キ質ハ固形體ノモノタリ、口
内ノ唾液ニ因テ軟化溶解シ、舌ノ乳嘴ニ親觸セ

シメ、諸味ヲ辨ズルモノナリ、固形ノ乾固セル食物ヲ喰フキハ、唾液ニ混合セザレバ其味ヒヲ覺フルトナシ、又食物ヲ永ク口内ニ停ルキハ、淡味トナルモ溶化シテ其味分子ヲ舌乳嘴ニ吸收サル、故ナリ、味官ハ習煉ニ由テ銳敏ニナルアリ、喻ハ茶、酒等ノ鑑定家、喫烟家ノ巧ミニ其品位ノ良否ヲ鑒別スルセ味官ノ習煉ニ由テ銳敏トナル故ナリ、又阿片煙草ヲ吸フ惡習ニ慣レルキハ其味ヒ佳有珍味ニ優ルモノナリ、茶、骨喜、酒、烟草等ヲ嗜ム常癖トナレバ一朝ニ歇

難キモノナリ、是ニ由テ口内、咽喉、胃等ヲ衝動シテ病ヲ發スニアリ、故ニ味官ハ濃淡偏倚セザル飲食ヲ撰用スルヲ良トス、
カタクヨリ

第十七課 ○觸覺官 (皮膚)

皮膚ノ觸覺ハ皮膚ニ循行スル神經ノ官能ニシテ、寒熱痛痒粗密ヲ知覺シテ身體ノ利害ヲ測リ殊ニ吾人ノ指頭ノ如キハ、觸覺球ナル特有ノ神經ヲ具シ銳敏ナルモノニシテ細小ナルハ顯微鏡ニ非ザレハ視難キ精巧ノ工業ヲ為シ、廣大ナルニ至テハ一大洲ヲ開鑿シ一國ヲ興起顛覆ス

ルモ僅カニ指頭ノ運轉スル方向ヨリ成ルヲ以テ觸覺官ノ効用ヲ察知スルニ足レリ、

第十八課 ○生活力論

植物ノ種子ヲ蒔ケバ土中ニテ固有ノ質及ビ定^キ型ヲ有セザル水液ヲ吸^ク收シテ蒔キタル種子ト同質ノ果實ヲ生ズ、吾人ノ如キモ、動物植物水液等人間ノ形チト異ナルモノヲ食シテ、人間ノ定型ニ變化スル機能ヲ生活カト謂フ、此機能ノ元^ハ噴ニ離^レ歸スルヲ死ト云ス、^{アタカ}喻ハ燈火ノ燃ルキハ光アリ温熱アリ且ツ油ノ燈心ニ附キ、大氣ヲ引

テ燃燒スト雖之ヲ吹キ消ス片ハ唯油ト燈心ノ焦ゲタルヲ見ル而已、吾人ノ生活スル^{タマシヒ}靈魂ト稱スルモノモ、形アルニ非ズ、^{カラ}身體ノ機能ヲ有シテ^{ヤダ}脳髓中ニ含^ヤ含スルモノナリ、

小學人身窮理書卷之下終

小學入身算理書 卷下

川崎 朝昌

曾我部 信雄

横田 隆重

原田 伯龍

校

Vertical text columns on the right page, mostly illegible due to fading.



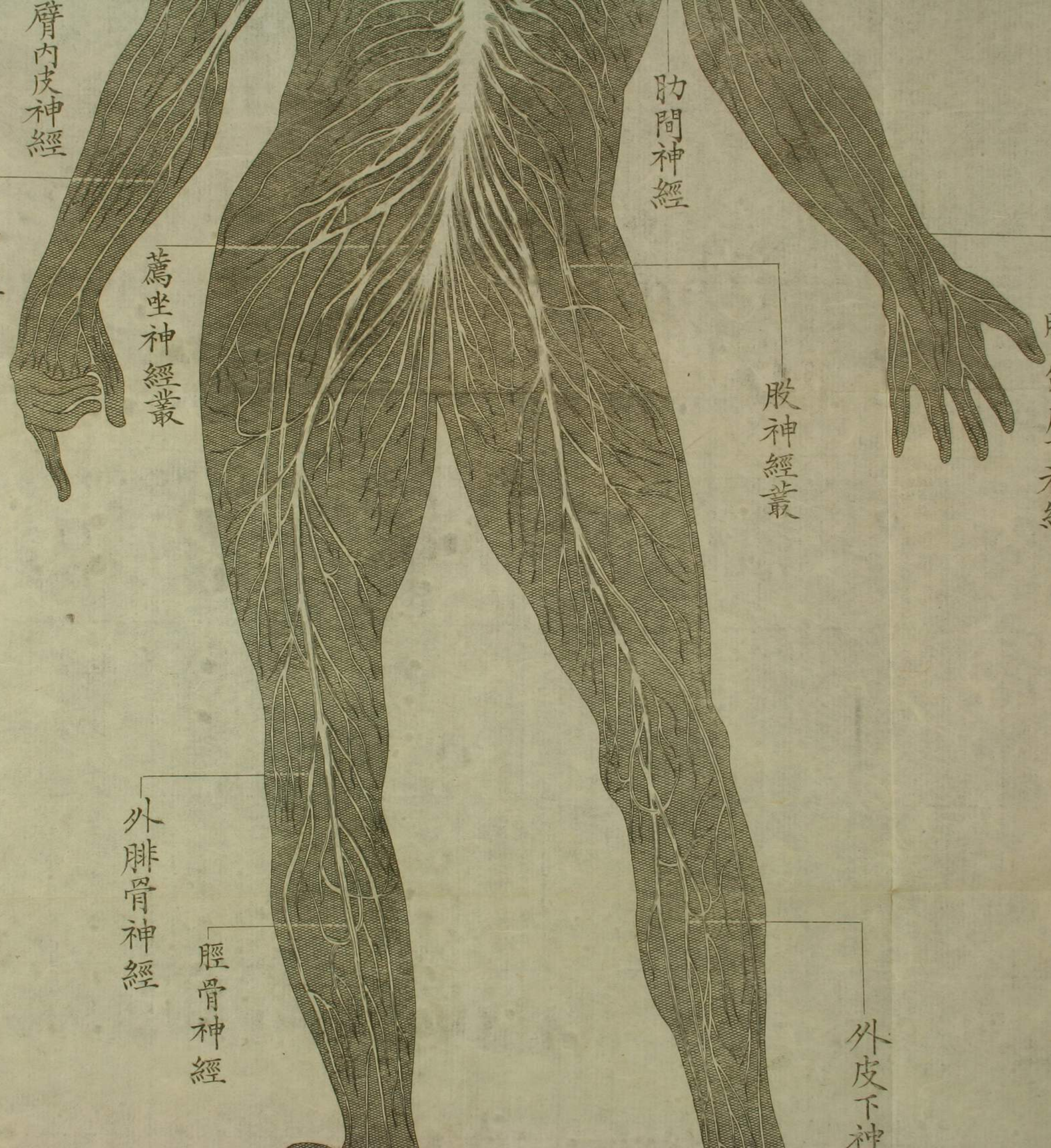
登白文林園

總利寺園

出阿林園

神經之圖





臂內皮神經

肋間神經

中神經

薦坐神經叢

橈骨神經
肘、筋皮下神經

股神經叢

外腓骨神經

脛骨神經

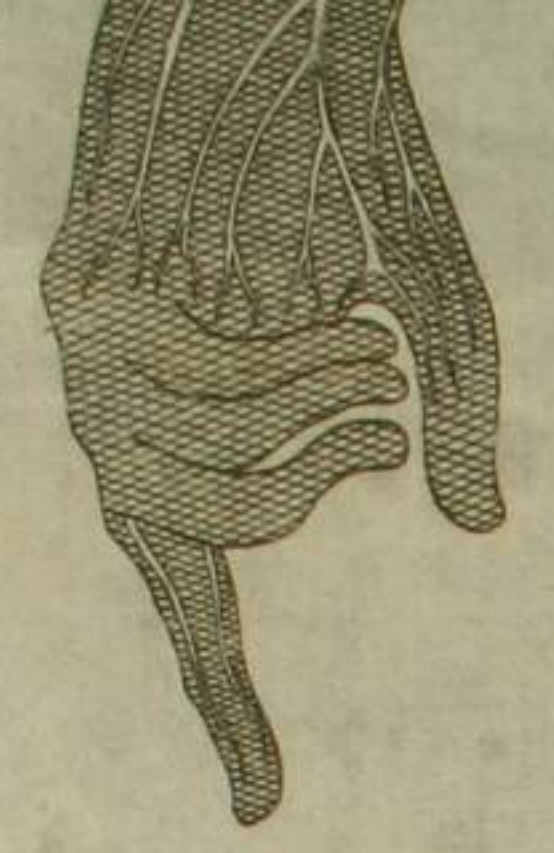
外皮下神

橈骨神經
肘，筋皮下神經



股神經叢

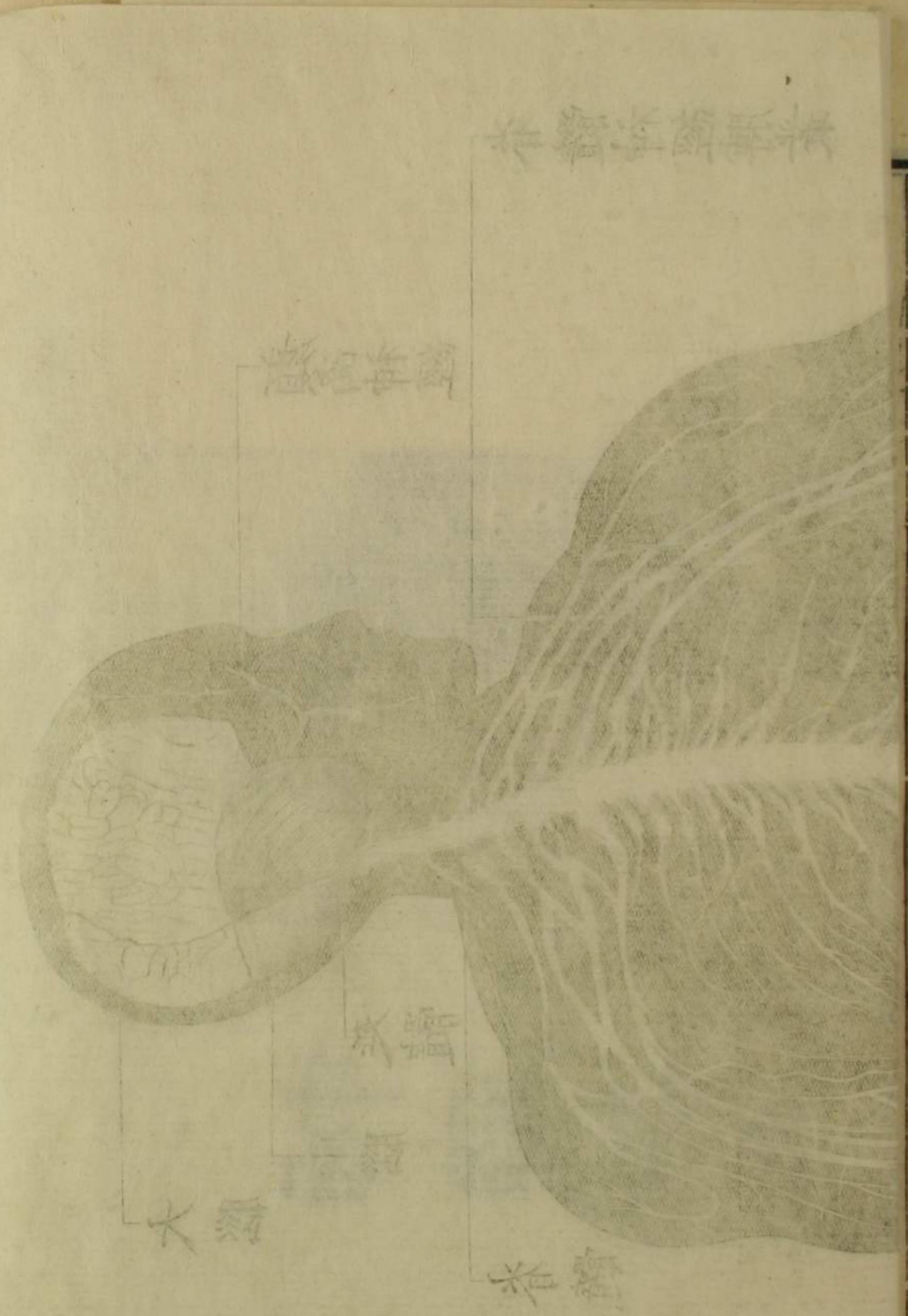
坐神經叢



外皮
下神經

脛骨
神經

外腓骨
神經



明治十三年二月廿日版權免許

著述人 大阪府平民 浦谷義春

出版人 岐阜縣平民 山岸彌平

同 大阪府平民 松村九兵衛

同 大阪府平民 前川善兵衛

東區南久寶寺町四丁目八番地

南區心齊橋壹丁目四十三番地

同 北濱二丁目四十番地寄留

東區南久寶寺町二丁目貳番地

